

## 奥州市誕生10周年記念式典祝辞

奥州市誕生10周年記念式典のご盛會を心からお喜び申し上げます。

奥州市誕生までご苦労された関係者の皆様、さらには誕生から今日まで奥州市の発展にご尽力された関係者の皆様に、心からの敬意を表します。

本町は、ご紹介の通り昭和58年に旧前沢町と姉妹提携をさせていただきましたが、合併後も奥州市と引き続きの交流を重ねさせていただいており、今年で33周年を迎えます。本町では昨年、平泉文化を研究されている方々やアイヌ文化を研究されている考古学者を多数お迎えして、シンポジウムを開催いたしました。きっかけは、本町で50年前に発掘された壺が最近になり常滑の壺と判明し、しかも、850年前に奥州藤原氏からもたらさせた可能性が高いと考えられたからであります。奥州藤原氏が支配していた北方交易ルートの結節点として当該地区が重要な役割を果たしていたのではないかと考えられているようですが、悠久の時を経た縁と考えますと、感慨も一入であります。

悠久の時、歴史という点においては、私たちが憧れて止まない奥州の地は、まさに奥行きや格が違うわけではありますが、それも天与の自然環境生かしてきた先達者たちの努力の結晶でもあります。人々の生活を横糸として、時を縦糸として社会や文化の発展が紡がれていきますが、それぞれの地域の歴史を引き継いで奥州市はこの10年間、関係各位のご尽力、市民の皆様のたゆまぬ努力で大きな成果を挙げてこられました。様々な困難もあったと思いますが、市民の皆様の未来を思う一念が今日の繁栄をもたらしたものと思います。世阿弥は「家、家にあらず、継ぐをもって家となす」と伝統を継承する極意を説いていますが、地方創生ビジョン・総合戦略を策定する経過を踏まえますと地方の発展のためには市民の自発性と変革の気概がもっとも大切だと感じています。

奥州市は、地政学的な潜在力から注目度が益々高まっていると伺っています。本日の記念式典を契機として、奥州市のさらなる発展のため、小沢市長のもと関係各位や市民の皆様が一致協力し、深い郷土愛をもって力強く前進していくことを心から期待してやみません。

結びに、奥州市の限りない前途を心から祝福するとともに、市民各位のご健勝をお祈り申し上げて、お祝いの言葉といたします。

平成28年2月20日

厚真町長 宮坂 尚市朗